イベント報告

うどんだけでないうどん県の魅力

村越 真

弥勒ロゲイニング　2012 年 12 月 2 日 香川県さぬき市

2 年前に JOA に復帰した香川県が、昨年に引き続いて弥勒（みろく）ロゲイニング大会を開催した

2012 年 12 月 2 日（日）香川県さぬき市
弥勒ロゲイニング大会

混合	チーム名	得点
1	TEAM 阿闍梨	634
2	チーム 299	558
3	維新やまちゃんず	517
4	TREKNAO 伊藤 奈緒	506
5	維新ランナーズチームちょるる	454
6	静岡 OLC 大丈部	429
7	Team O-nojo	368
8	チーム入れ込み	290
男子チーム		
1	山本ソープランズ	394
2	姫路の水泳部	327
女子		
1	チーム mikata 山下明美	248
家族		
1	みーちゃんとパパ清水 尊司	209

なんと、香川県は公式にも「うどん県」を名乗っているのだ

香川県復活の狼煙

残念なことに東日本大会とバッティングしていたため、オリエンティアの参加は少なかったが、山口でのシティーロゲイニングで、女王田島とトレランのプリンス奥宮のペアを破ったランナーチーム、富山から静岡までアルプス 415km を縦走するトランスジャパンアルプスレース出場＆完走の伊藤奈緒・木村チーム、打倒村越・田島チームを目指すチーム 299（にくきゅう）など、強豪チームが混合に勢揃いした。参加数も初回を超える 64 名となった。

今回コースプランナーを務めたのは、奥村理也（みちや）氏。昨年と同じ弥勒公園をスタートにし、地域独特の神社や史跡を使いながらも、昨年の伊藤奈緒氏とはまた違ったテイストのコースを用意してくれた。弥勒南部の山中から、瀬戸内海に面した名勝津田の松原まで多様な自然とナヴィゲーションスキルが楽しめるコースだ。フォト形式ながら、山中の双子の切り株など、地図読みが楽しめる工夫も用意されていた。

TEAM 阿闍梨かく戦う

得点で上位 3 チームに入った私たちの阿闍梨、Treknao、チーム 299 の周り方のコンセプトはほぼ一緒。スタート後、反時計回りに渦を巻くように南部の山地を押さえ、高い得点が稼げる北部の海岸に展開していく。帰りのルートに無駄が出そうなこのプランは自分でも半信半疑だったが、コース前半で、これらのチームがほぼ同じ周り方らしいことが分かったのだ、やはりベストルートだったのだろう。

ライバル伊藤奈緒・木村正文チームは、いずれも長いトレイルを得意とし、地図も読める強豪チームだ。

ナヴィゲーションでほとんど差の付かない Treknao は強豪だ。展開とお互いのスピードを考えると、最後まで気の抜けないシビアな競い合いになるだろう。アタックの難しいポイントで先に行かせようと小技を使うが、彼らのルートも率がなく、離れない。2 時間すぎまでほぼ同じペースで進む。序盤で数点差はあるものの、最後に簡単に逆転されてしまう点数差だ。瀬戸内を望む中盤の山場でもまだ 3 分程度の差だが、その後の出戻りのコントロールで若干差が付いたことに気づいた。僕らと彼らのタイム差が小さいながらも、勝負どころのコントロールに行くか諦めるかのクリティカルポイントになれば、勝負が決する。長丁場のロゲイニングだが、勝負所はこんなところにある。ここは頑張ってペースアップ。

山ガール（？）も参加。「すごーい！」の歓声に気をよくしてスピードアップする田島（右奥）。

津田湾北部の 2 ポイントは合計で 75 点を超え、往復で 20 分以上かかる。彼らにすれ違うことはなかったので、このポイントを諦めたのか、手前の一つだけで戻ったのだろう。あとはこちらにブレーキがなく、大きく時間を残すことがなければ逃げ切れるはず。

普段 2 時間以上走ることがない僕は、最後はよたよた走りながらも、確実かつギリギリのタイムを狙って 4 時間 58 分でゴール。

Treknao チームは、津田湾北部の 2 ポイントに勝負をかけて取りに行ったものの、3 分間のオーバータイムで、4 位に沈んだ。

広がりを見せる活動

地元の一般を対象とした 3 時間クラスは、事前のエントリーこそ 3 組だったが、直前の広報が功を奏したのか、4 倍増！の 16 チーム。5 時間チームの 1 時間後にスタートし、1 時間前にはゴールが決まっていたため、その賑わいを見ることはできなかったが、2 年目にして、すこしづつ地元に根付きつつあることが感じられた。

讃岐のスポーツツーリズム

ゴール後は、昨年プランナーを務めた伊藤奈緒さんと地元の友人の企画で志度湾の牡蠣の浜焼きを食べに行った。牡蠣の産地である同地では、海岸の小屋で牡蠣の焼き放題が食べられるのだ。酒や薬味はもちこみ自由。出てくるものは、牡蠣だけ。しかもシャベルで 1.5m 四方の焼き網の上に放り込まれる。それを客が自分で並べて、後は焼き上がるのを待って、ひたすら食う、飲む、合間に今日の反省、そしてこれからのオリエンテーリングとロゲイニングの話に花を咲かせる。旅すればこその開放感に話が弾む。

これが志度の浜焼きだ！しゃべるでどっさりと網の上に載せられた牡蠣を、ひたすら食べる。

翌日は、パートナー田島利佳と静岡の女王堀本睦さんと 3 人でうどん県巡り。レンタカーには、有名な製麺所／うどん屋の一覧表と地図が積んである。さすがうどん県。2 軒、都合 4 玉食べて、琴平神社を久しぶりに詣でて、高松空港から帰路についた。

翌日はうどんや巡りと琴平神社へ。左奥は静岡の女王堀本さん。

讃岐のロゲイニングは、精緻なナヴィゲーションも要求されるハイクオリティー。前日には、一般・登山者向けの読図講習会も開かれ、14 人もの参加者を得ている。うどんだけでないアフターも充実。その割に参加者が 64 名とは、PR が十分でないことが課題だが、課題はむしろのびしろでもある。来年も開催されるかどうかは未定だが、開催されるなら是非参加したい大会の一つであることは間違いない。

前日の読図講習会は 14 名と盛況。全国的にもナヴィゲーションスキルへの関心は高まっている。この日は自衛隊関係者、山岳関係者、野外活動施設スタッフなど多様な参加者を得た。図左は、前日・ロゲイニングと参加した尼崎市の美方高原自然の家スタッフの方。オリエンテーリング・ナヴィゲーションをプログラムにぜひ採用したいという。

東京から打倒阿闍梨にやってきたチーム 299（にくきゅうと読むらしい）。

アフターの牡蠣の浜焼きの幹事をしてくれたあおちゃん（左）とその仲間たちも 3 時間ロゲイニングを楽しんだ。

（村越 真）